



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-229-0112



私の最上段魂

47回生 上講 啓

今回OB会報誌を書かせていただくことになりました47回卒業の上講啓です。現在、私は島根大学総合理工学部物質科学科化学コースの1回生です。また、サッカー部ではなくアメリカンフットボール部に所属しています。なぜアメリカンフットボール部への入部を決めたのかというと、入学する前まではサッカー部に入部しようと思っていたのですが、いざ練習に参加してみると広島城北高校サッカー部の「最上段魂」のような熱がなく、自分自身そのような熱さがなければいけないなと思いついた他の部活を探していたところ、アメリカンフットボール部に出会いました。島根大学アメリカンフットボール部は今年の1回生を入れて全員で30人余り、関西や関東の強豪校に比べれば人数はとも少なく、熱みがないものを先輩たちから感じ、雰囲気も良くとても楽しく新鮮な気持ちで日々の生活を送っています。自分の近況はここまでにして、私が現役時代の頃の思い出についてお話ししたいと思います。

僕たちの代は1つ上の先輩たちが総体で全員が引退したため、2年生の夏から本格的に自分たちの代が始まりました。その年の選手権は1、2年生だけで戦い相手は3年生が残っていたというチームが多く3年生の「負けたらおわりだ」という気持ちは勝敗に大きく関わるなと思えました。またトータルして考えると、僕たちの代はとても不甲斐ない結果におわり悔しかったですが、選手権までやりきったという気持ちも大きく3年間の高校サッカーは充実していたなと思えました。高校サッカーから離れて今こうして振り返ると、3年生が多く残ったも結局はあと少しの粘りが足りなかったり、「負けたくないんだ」などの気持ちの問題がとても大きいと思います。ですから現役のプレイヤーには今が一番楽しい時なので、苦しい時こそ1つ1つの練習を気を抜かずやりきり、挑戦の気持ちをもつてがんばってもらいたいです。



広島城北サッカー部に伝えたいこと

44回生 西田 真悟

みなさんこんにちは。私は第44回卒業生の西田真悟と申します。現在、長野県の国立大学である信州大学に通っている4年生です。私は広島城北学園に2002年に入学し、6年間お世話になりました。今回は教育実習のため広島城北学園に戻ってきました。

私は広島城北中学校に入学してからすぐにサッカー部に入部しました。しかし中学3年生の冬に交通事故に遭い、足を怪我してしまつたため、これを機に引退し、親の期待にこたえるため高校からは勉強を頑張ろうと思つていました。しかし交通事故から8カ月後、リハビリを終えて友人とサッカーをしたとき、サッカーってこんなに楽しんだ、と思わず一人でやってみてしまふほど嬉しかったのを今でも覚えています。さらに、中学校からサッカー部に戻って来たとき、友人から「サッカー部に戻ってこいよ」と何回も言葉にかけてもらい、日に日にサッカー部に復帰したいという思いが募つていきました。そしてとうとう、親の反対を押し切つてサッカー部に戻ることを決意しました。私は高校1年生の冬にサッカー部に復帰してから1年間半サッカーを続けました。他の人より高校でのサッカー生活は短いですが、もしあの時、サッカー部に入らず勉強をするだけの高校生活を送つていたら、空白の高校生活を送つていたことと思います。だから、サッカー部への復帰を誘ってくれた仲間たちに本当に感謝しています。そして何と云っても、結局

てほしいと思います。その陰には、絶対家族の支えがないとできないと思います。一人暮らしを始めてすぐ感じていますが、今まで当たり前のように出ていた食事や当たり前のようにしてもらっていた洗濯など、とても有り難いことをしてもらっていたのだと痛感し両親には感謝しきれないほど感謝したいです。最後に、今回OB会報誌の執筆という機会を設けてくださりありがとうございます。これからも広島城北高校サッカー部の頑張る姿を楽しみに、OBの一員として応援し続けたいとおもいます。不慣れた文を最後まで読んでくださりありがとうございます。

最上段の思い出

47回生 青木 聡

47回生の青木聡です。この度はOB会報誌に何か書いてほしいとの依頼を受けたので、自分のような者が書いていいものかと戸惑つていますが、折角の素晴らしい機会を無駄にしてはと思ひ一筆取らせていただきます。拙い文章ですがどうか最後まで読んで頂ければ幸いです。

自分は、一年の浪人の末に北九州市立大に進学し、修羅の国である北九州で日々勉学に勤しんでいます。今は周りに女の子が多く、毎日楽しく学生生活を送れています。ありがとうございます(笑)

最後まで親が黙って僕のサッカー生活を見守ってくれた事に本当に感謝しています。現在僕は、信州大学で初心者から経験者までフットサルを教えています。しかし、教えるという事は難しいことです。初心者にも経験者にも満足して帰ってもらうにはどうしたらいいのか、みんなが理解して動けるようにするためにはどうしたらいいのか、ということを実行錯誤しながら自分で練習メニューを考えています。今になってサッカーを教えたかったです先生方がどんなに苦労していたかがわかりました。

おかげでもあります。そしてなにより、共に楽しみや苦しみを共感できる仲間がいるおかげです。みなさんは周りでサポートしてくれているたくさんの方に囲まれながらサッカーをしています。三つ目は思い切りサッカーをしてください。現在の広島城北学園では、学力向上のために様々な改革が行われていることを私は教育実習を通して知りました。そのため、7時間目に授業があり、またそのあとも補習が多く行われているので、私が現役だった頃に比べてサッカーをする時間は少なくなつてきていると思います。しかし、だからと言ってサッカーを思い切り出来ないということにはならないはずで、むしろ、思い切り勉強してそこで貯め込んだエネルギーを、サッカーで発散するぐらいのエネルギーがあつてもいいと思います。部活と学業の両立は大変だと思いますが、両立できこそ広島城北サッカー部だと思います。



ことが出来はしましたが、自分の実力は周りに到底及ばず、公式戦のメンバーに選ばれることはなく、常に応援する立場でした。自分は応援のリーダー(自称)として各選手の応援歌を考えたり、応援を盛り上げるためにメガホンで声を出し、太鼓を叩いていました。それはそれでとても楽しくやりがいもあり、決して苦痛ではなかったのですが、新人戦の後にまた通常練習に戻ると、メンバーに選ばれない悔しさとも不甲斐なさからあまり練習に身が入らず、

新年度になってからは、もうサッカー部を辞めようかと考えていました。当時は下手な自分をかばう様に、ただただ後ろ指をさされないうにプレーして、自分の持ち味や得意なプレーが出来ずにまるで作業のように練習や試合をこなしていったと思います。サッカーの楽しさを忘れていた気がします。そんな状態が続いていた為に練習に出ない日もありました。そんな時に岩井先生や宮本先生、チームメイト、特に自分と同じ様な境遇のメンバー3人と話をし

て、最後は楽しくサッカーをしようと思いいライノスに戻りプレーしようと思いいました。自分たちがライノスに戻ること出場機会が減ってしまいうライノスのメンバーには申し訳なかつたですが、その分も責任を持って尚且つ楽しんでサッカーをしようと思いいました。

自分がライノスに戻つてからはとても楽しくサッカーが出来ました。当時のライノスキーパーテンである井前を筆頭に自分たちの代はみんなが真面目にやったりふざけてやったりとある意味統一感が取れていました。そのおかげでアドバンスリーグに出た際は皆で団結して戦うことが出来ました。僕たちの最後の試合だった学院戦には、トップのメンバーや後輩たちがグラウンドの外から大きい声で応援してくれていました。自分はこの時、「サッカー部に残つて正解だったな、辞めなくてよかった。」と実感しました。自分はチームメイトや後輩に恵まれているなと思いいました。今こうしてこの文章を書けるのも、皆と頑張つた思い出があるから自信をもつてかけるのだと思いいます。

今自分は大学でもサッカーをサークルで続けています。まさか自分が大学まで行つてサッカーをするとは思っていませんでした。多分それは高校時代にサッカーの楽しさや仲間との絆を確認することができたからだと思いいます。自分でも何を書いているのかよく分からなくなりましたが、最後まで読んで頂きありがとうございます。

最上段サッカー感

広島城北高校サッカー部OB会長

19回生 吉川 英司

仕事が大変でしたね。初戦のブラジル戦もチヨロ眠い感じでキックオフ。すると開始早々ネイマールの鬼ボレーで先制。それで目が覚め無事最後まで応援出来ましたが結果は惨憺たる……

今大会の日本代表に対する感想はOBにおかれましては、全国各地で舌戦盛り上がったのではと推察します。

今大会、私個人的に惹かれたのがオセアニア地区を勝ち上がった「タヒチ」です。確かプロは1人で他のメンバーは国に帰れば職場持ちでほぼアマチュア(?)で構成されていると。この地区のセオリーで行けば、「ニュージールランド」が順当だったのでは。

そのチームがスペインと対戦出来るとは……結果はご存知の通り。(10-0) 体感した事でしょう。世界のトップというものを。この経験が大事だと思いいます。

後輩達も是非、まず県レベルでのトップを経験してもらい次に全国の強豪校と試合をして欲しい。たった高校3年間ですが、自分達の時代に不足を感じたのであればそれを後輩に託し今度は応援する側へ周り後方支援しましょう。このOB活動の様に。

例えばJリーグが発足したのも、1993年。当時、活躍した選手で当時ジュビロ磐田の「奥大介」という選手を憶えますか? 元、



日本代表まで経験した事がある選手です。先日、シヨッキンクなNEWSが:「妻への脅迫容疑で逮捕されました。」と。原因はよくわかりませんが、言いたい事は「Jリーガー」の生活環境整備です。努力の末、Jリーガーとなつても毎年100人以上が登録抹消となつていくらしく、その引退時の平均年齢もなんと、25.6歳という若さとの事です。その対策として、Jリーグも一応CSC(キャリアサポートセンター)を2004年4月立ち上げたらしいのですが、実態はいかかなものか?

我々「最上段」を卒業したOBの皆様は幸か不幸かその道に(「Jリーガー」)進むことなく、互いに与えられた場所で元気に活躍していることと思いいます。早いものでもう30年位前になるのでしょうか? 私達世代(「宮本監督含む」)が、現役で最上段の「湧水」を飲んでいたのは、あれは、理屈抜きに美味しかった。

OBの皆様、来年の1月3日も「最上段」に集まり新年の蹴り始めをしましょう。是非、当時のメンバーへ声かけてあげてください。多分行きたいけどなかなか行きにくく自分で壁を作つている同期がいるハズです。参加すると本当にあつという間に当時の高校生気分に戻れる事でしょう。その時間を共有すべく昔の仲間へ連絡の程重ねてよろしくお願ひします。

PS:先輩諸氏方々も来年はお待ちしておりますので是非おいで下さい。楽しみにしております。

PS:先輩諸氏方々も来年はお待ちしておりますので是非おいで下さい。楽しみにしております。



近況報告

みなさんこんにちは! 24回生の岩井竜彦です。

外部コーチだった私が広島城北学園で勤務するようになって、はや5年目となります。その間、寮の舎監やアメフト部の顧問を仰せつかるなど、私自身ほぼ毎年のように大きな節目をいただいてきました。そしてこの4月からは、中学校サッカー部の指導にも関わらせていただいています。

高校生とは勝手の違うことも多く、戸惑うことはありますが、高山先生と協力しながら、ようやく軌道に乗ってきたように思っています。先の中学校選手権大会では、残念ながら後一步のところ県大会出場はかありませんでしたが、私自身にはたくさんの学びがありました。

同時に引き続き高校サッカー部、特にライノスの活動にも出来る限りの関わりを持たせてもらっています。

今回の会報誌に寄せてもらった文章にもあるように、ライノスへの思いを持っているOBもたくさんいます。最近では「ライノスの文化」という言葉で表現されることも増えてきましたが、OBのみなさんにライノスへの思いをもってもらえることは本当にうれしいことです。

しかし、チーム内にトップとライノス、ふたつのチームがあるわけでは決してありません。広島城北サッカー部がもっとも大切にしていること、常に前向きな気持ちをもって仲間とともに全力でチャレンジしていく中で、目標に向かって取り組んだことを披露するチャンスが全員にあつてほしい、ライノスはそんな思いから生まれました。

現在チームは、覚悟を持って残る決断をした二人の3年生を中心に、選手権に向けて熱い日々を過ごしています。

OBのみなさま、これからもあたたかいご声援をよろしくお願ひいたします。

そして、広島城北サッカー部の冒険を、みんなで一緒に楽しんでいきましょう!

広島城北高校サッカー部コーチ 岩井竜彦(24回生)



QPONのひとり言

数値化 効率化 競争社会

すべてが見えなければいけないのか?
皆が強くなければいけないのか?
結果が、すべてなのか?

もっと大切なものがあるのでは……

時代の流れに逆らっても

日々、感動したい
人の心を大切にしたい



広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠 (19回生)